

【背景】

① 大宮駅周辺地域戦略ビジョン策定（H22）⇒② 首都圏広域地方計画に大宮が位置づけ（H28）⇒③ 都市再生緊急整備地域指定（H29）⇒④ **大宮駅GCS化構想策定（H30.7）**

【事業内容】

必要性

○大宮の拠点性向上

「首都圏広域地方計画」で位置付けられた「東日本の玄関口」としての役割を果たすため、本市のプレゼンスとブランド力を高め、企業や市民から選ばれる都市を形成

○強靱性を備えたまちづくりの推進

狭あいな道路や老朽化建物が残る大宮駅周辺地区の防災性を向上するため、市街地の更新を図るとともに、首都圏機能のバックアップ拠点としてリダンダンシーを確保



大宮駅GCS化構想のイメージ

予算要求

平成31年度：214,201千円（内保留額：27,500千円）

（主な事業の内訳）

- 大宮駅GCS化構想推進事業
- 大宮駅周辺地区道路整備計画検討業務
- 大宮駅周辺地域歩行回遊分析調査

【保留】

- **大宮駅周辺地区におけるデザイン調整等検討業務 37,400千円**
（内示済額：9,900千円保留額：27,500千円）

- ・大宮駅周辺の更新にあたり、「大宮らしさ」を活かした景観・機能を確保し、高質な空間を形成するための、官民共通のルールとなる「まちづくりガイドライン」を作成
- ・高度なデザイン提案と最先端技術の導入により、景観面・機能面ともに高質なまちなみの形成を目指す
- ・構想実現案（1案）を整理するため、本年3月に取りまとめる構想実現案（第1案+第2案）をブラッシュアップ

⇒国内のみならず、世界のまちづくりに精通した高度な知識と豊富な経験を有する者を選定
⇒大宮の先進的な将来イメージをパースや模型でビジュアル化



高輪ゲートウェイ駅【出典：JR東日本HP】



大阪駅【出典：UR都市機構HP】

実施による効果

○革新的な暮らしやすさに向けた、国が提唱する「スマートシティ」の実現へ！

「スマートシティ」の概要

都市の抱える諸課題※に対してICT等の新技術を活用しつつ、マネジメントが行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市

- ・交通：公共交通を中心に、あらゆる市民が快適に移動可能な街
 - ・自然との共生：水や緑と調和した都市空間
 - ・省エネルギー：建物・街区レベルにおける省エネを実現、太陽光、風力など再生可能エネルギーの活用
 - ・安全安心：災害に強い街づくり・地域コミュニティの育成
非常用発電機、備蓄倉庫、避難場所等を確保
 - ・資源循環：雨水等の貯留・活用、中水を植栽散水等に利用 等
- ※ 都市の諸課題はSDGs（持続可能な開発目標）を軸に整理

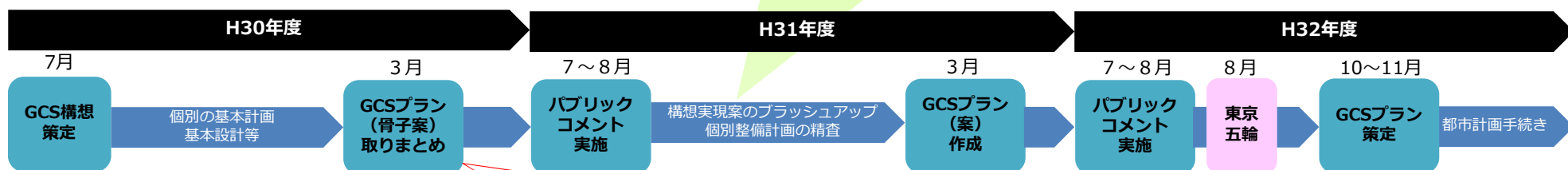
○「大宮駅GCS化構想」の都市イメージ案を、2020年東京オリパラに向け全世界に大々的にアピール！

⇒「東日本の対流拠点」としての大宮をアピールして企業の進出意欲を高める！

○地元市民をはじめとした多くの関係者と将来ビジョンを共有することで、合意形成を加速度的に推進！



【事業スケジュール】



- 構想実現案（第1案+第2案）
- 個別整備計画
 - ・道路整備計画（案）
 - ・交通需要マネジメント（素案）
 - ・駅改良計画の方針
 - ・ガイドライン素案

- 構想実現案（1案）
- 個別整備計画
 - ・道路整備計画（案）
 - ・交通需要マネジメント（案）
 - ・駅改良計画（案）
 - ・ガイドライン（案）

「大宮駅GCS化構想」の都市イメージ案を2020年東京オリパラで全世界に大々的にアピール！